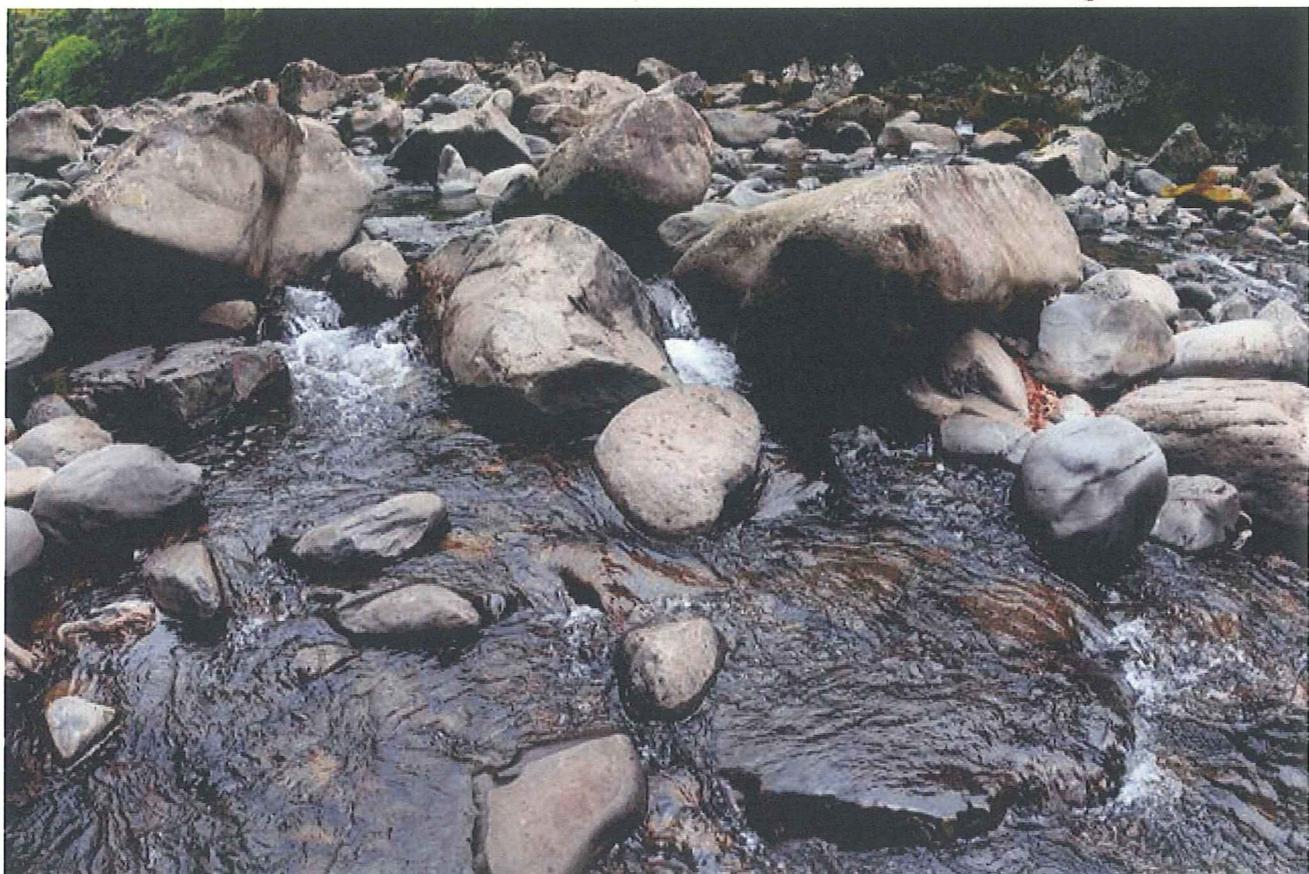


照葉樹林だより

ISSN 1880-8794

てるはの森の会 会報第36号
2013年12月20日



川中の綾南川を埋めた岩石群

(撮影 坂元守雄)

研究

綾の森とサルと人と

岩切康二

…2-3p



自然と向き合うということ

…4p



事務局だより

…6p



「生物多様性日本アワード優秀賞」
を受賞しました!

…5p

発行:てるはの森の会(綾の照葉樹林プロジェクト事務局) 〒880-0014宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号

TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る綾の照葉樹林の保護・復元を目指す、官民学協働のプロジェクトです。

E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.com> (フェイスブックも情報発信しています!)

綾の森とサルと人と

岩切環境技研(株)／宮崎野生動物研究会 岩切康二

1.はじめに

2013年は宮崎のサルが世間を賑わせた年でした。みなさんもご存じの日向市のかみつき猿騒動です。市民18人がケガをして、400人以上の体制で捕獲作戦が行われました。基本的に人を襲うことはほとんどないニホンザルですが、なぜこのサルがこのようになってしまったのかは、今も不明なままでです。

私はここ数年、ニホンザルの農作物被害対策に取り組んでいます。元々山で生活していたサルが里に下りてきて、農家が一生懸命作った農作物を数時間でめちゃくちゃにしてしまう。その現場に出くわして、農家の人と話をすることは、とても胸が痛いものです。この猿害は宮崎県内の北から南まで広く発生していて、綾町も例外ではありません。綾町で猿害を起こすサルはいつもどこにいるのか？綾の照葉樹林の中？それとも里山にずっといるのか？この疑問に答えるためには、年間を通したサルの追跡が必要ですが、残念ながら綾の森でのサルの生活はほとんど分かっていないのが現状です。ここでは、これまでに分かった綾の森でのサルの生息状況について整理してみたいと思います。

2.綾の森でのサルの歴史

宮崎県内でのサルの記録について、私の知る限り江戸時代1843年の「三国名勝図会(さんごくめいしょうずえ)」に鳥獣の記録があります。その中では、サルが生息している地域として、綾の記載があります。その後、1923年に長谷部言人により行われた全国アンケート調査、1953年に岸田久吉がまとめた農林省の調査があります。長谷部の調査には綾の記載はありませんが、岸田の調査では綾に生息していることになっています。これらの結果からは、綾の森では古くからサ



2003年に確認された群れの一部

ルの群れが生息していたと推察されます。しかし、1974年、1989年に竹下完らが聞き取りや現地での調査を行った結果、綾ではサルの群れは確認されず、いるとしても数頭のハナレザルがいる程度と報告されました。岸田の調査から竹下の調査までの間、綾の森に何があったのかは分かりませんが、1900年代後半には綾の森でサルの群れと出会うことはほとんどありませんでした。しかし、私が関わった2003年頃の調査では、少なくとも10頭前後のサルの群れが綾南川沿いに生息していることが確認されました。

3.照葉樹林のサルたちは何を食べているのか？

サルの研究で最も有名な場所は宮崎県串間市にある幸島です。そして同じく鹿児島県の屋久島でも長年サルの研究が続けられています。これら幸島と屋久島の研究報告を引用しながら、綾の森のような照葉樹林でのサルの食性について眺めてみたいと思います。幸島での採食については、33種類の樹木で採食が確認され、2月にはイヌビワ、トベラ、ユズリハ、モチノキ、6月にはヤマモモ、9月にはゴンズイ、コバンモチ、クマノミズキ、

ハゼノキ、イヌビワ、11月にはシロダモ、カラスザンショウ、カクレミノ、ユズリハの選択度が高いという報告がされています(深谷ら, 2002)。屋久島での採食については、1月から7月までの葉食期と8月から12月までの果実食期に大きく分けられ、葉食期には、常緑のアコウ、ヒメユズリハ、ハナガサノキ、クロバイや、落葉のシマグワやオオムラサキシキブなどが、果実食期にはタブノキ、ヤマモモ、クマノミズキ、ハゼノキ、アカメガシワ、アコウ、イヌビワ、シイ、マテバシイ、バリバリノキ、モクタチバナなどが多く利用されています(丸橋, 2000)。

宮崎の照葉樹林や里山での観察では、彼らサル達は季節ごとに美味しいエサを選択しながら遊動していました。特に私は猿害が激しい群れを追跡してきたことから、美味しいエサの多くはトウモロコシ、サツマイモ、大根、ミカン類などの農作物です。ただ、これらの農作物があつても、山に美味しいエサがあるときには里に下りてくることが少なくなります。例えば、シイの実、タブノキの実、栗、柿、アケビなどの時期には、里に下りてくる回数は激減します。このように最近のサル達は山のエサと農作物をうまく組み合わせながら生活していると言えます。綾の森では、その他にマテバシイ、イヌビワ、シマサルナシなどを食べているサルを観察したことがあります。植物の種多様性が非常に高い綾照葉樹林ですから、他にももっといろいろな植物を利用していることでしょう。

4. 綾の森のサルを追う!

綾の森には25種前後の哺乳類が生息していますが、その中でも昼行性のニホンザルは最も観察しやすい哺乳類の1つです。また、食べ跡や糞が分かりやすいため、それらの痕跡からサル達が何を食べているのかを知ることができます。日本一の照葉樹林に住むサルが一体どのような生活を送っているのか?彼らはどれぐらい農作物に依存しているのか?それとも、山の中でひっそりと生きているのか?里地での猿害を減らしていくためにも、綾の森のサルの生態を解明することは重要なと思います。みなさん、一緒に綾の森のサルを観察してみませんか?

(引用文献)

深谷もえ・岩本俊孝・伊藤哲(2002), 幸島の植物種および植生タイプに対するニホンザルの採食選択性, 靈長類研究 18:203-213
丸橋珠樹(2000), ヤクシマザルの採食行動と群れの社会変動, ニホンザルの自然社会(高畠由起夫・山極寿一編著):59-96



イヌビワの実を食べるサル



ダイコンを食べるサル



シイの実を食べるサル

自然と向き合うということ

綾町森林セラピーの案内人 河野 聖子

11月2～3日、綾町で開催された(公財)日本自然保護協会・綾町主催の「自然観察指導員講習会」に参加してきました。

参加のきっかけは今年から綾町森林セラピーの森の案内人になったことでした。自然観察会を体験することで森林セラピーの参考になるのではないかと考えたのです。

開講式の後すぐに近くの森の入口に行き、全体を“見て”スケッチすることから始まりました。すると最初は“見る”だったのが細部に目が届くようになり、次第に“観る”になっていきました。鉛筆でスケッチしただけでしたが、私には木々の色や質感の違いも面白く、書き込んで行きました。これらも定点で描き続けることでひとつの観察記録になるということです。

一步ずつ森の中に進み五感を使っていきます。大木の下の落ち葉を観察、落ち葉の下の生物を探す時は子供に帰った気分でした。

その後の講義「自然の保護」「自然の観察」では、知っていたつもりの常識を再認識しました。例えば、生物多様性という言葉も理解しているつもりでしたが、詳しく聞くと生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性と3つの多様性があることを知りました。

翌日は講師のお二人から実際の自然観察会で使ういろいろな素材やヒントを丁寧に説明して頂きました。その後、いよいよ参加者それぞれが自然観察会を計画し、グループ内で講師役と参加者役を模擬体験した後に意見を交換し合う活動をしました。私は身近なところで計画し、街路樹のサクラをじっくり眺めることから始めました。グループの5名で眺めることで自分では気づかなかったことにも気づきました。若葉が芽吹いていたこと、幹に寄生している苔の多彩なこと。新たな発見でした。

講習会で心に残ったことがあります。小雨の中、樹皮に触れていた時です。色々な樹の中でふわふわと心地よく感じたのがスギでした。スギは照葉樹林を保護・復元するためには必要のない木であり、森林セラピーにも有効ではないという認識っていました。しかし、一つの生きものとしてのスギの命に触れ、照葉樹で感じていた心地よさがスギにもあると気づき、私の思い込みは大きく変わりました。いらない命はないのです。知ったふりを取り払った思いこみのない気持ちで自然に向かった時、最高の自然観察会ができると思います。

新しい気づきをたくさん得られた講習会でした。森林セラピーの案内にもぜひ応用していきたいと思いました。

(綾町・かわのせいこ)



「生物多様性日本アワード優秀賞」を受賞しました!

事務局 相馬美佐子

嬉しい報告です。栄えある「第3回生物多様性日本アワード優秀賞」を受賞しました。本賞は2010年に生物多様性第10回締約国会議(COP10)が日本(名古屋)で開催されるのを契機に、生物多様性の「保全」及び「持続可能な利用」を推進することを目的に「公益財団法人イオン環境財団」により2009年に創設されました。国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity」と隔年で実施されています。

特徴は、公募で実施され、最終選考前には一般審査員がネット上で議論を行い、審査の参考にします。104件の応募の中から、4件の優秀賞と1件のグランプリが選ばれました。てるはの森の会は、優秀賞を受賞し、副賞として100万円を頂きました。

10月29日、東京国連大学ウ・タント国際会議場にて表彰式が行われました。本会からは河野耕三先生(代表代行)、下村ゆかり、相馬美佐子が出席しました。岡田拓也理事長から、河野代表代行と相馬が表彰状と副賞を頂き、その後、活動報告を相馬が行いました。

「綾プロジェクトの特徴は、協定5者が自らの予算で自らの事業を行い、それを積み上げるという穏やかな協働で行われていることにある。その一方で、地元・綾町民にとっては、森はあまりに身近なため、関心はあまり高くなく、地域づくりワーキンググループや、里山とのふれあい調査など、町民の参加を促すための活動も続けており、少しづつ成果をあげつつある」と発表しました。

当プロジェクトは設立から9年目を迎え、多くの会員、ボランティアに支えられ、地道な活動を続けてきました。これが認められたのです。他の受賞者は著名な企業や大学で、てるはの森の会のような小さな団体が受賞したのは、画期的なことです。

会場には、長年にわたり支えてくださった、大澤雅彦先生や前田穰綾町長をはじめ、林野庁、日本自然保護協会、宮崎県の歴代担当者、「ふれあい調査」「木の家だいすきの会」メンバーなど多くの方々が集まり、一緒に受賞を喜びました。

改めて多くの皆様に助けられ、栄えある賞を頂きましたことを感謝致します。その夜は、授章式に集まった皆さんで祝杯を挙げました。

(宮崎市・そうまみさこ)



左から
岡田拓也理事長
河野耕三
相馬美佐子

◆ グランプリ

津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興(特定非営利活動法人 田んぼ)

◆ 優秀賞

- ・太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連の協働・普及啓発活動(味の素株式会社)
- ・「竹紙(たけがみ)」の取り組み(中越パルプ工業株式会社)
- ・ネイチャー・テクノロジー創出のシステム構築
(ネイチャー・テクノロジー研究会(東北大学大学院環境科学研究科))
- ・綾の照葉樹林プロジェクト(てらはの森の会)

綾プロ 事業説明会 開催

「人とつながる 綾の森」

綾の森には、トロッコ道のレール跡や石橋、製材所跡のように、かつては綾の森を生業としていたことを物語る文化的な遺産がある他、仕事場を移動しながら生活していた生活跡地があります。その視点から綾の森をご紹介します。

日時:2014年1月28日(火)

19:00~21:10

場所:綾町高年者研修センター

※お申し込み不要、スリッパを持参下さい♪



事務局だより

◆てるはの森の会 関連行事

終了した行事

- 9月 17日(火) てるはの森の会 定例会
20日(金) ガイド依頼(参加者2名)
22日(金) 第5回地域づくりワーキンググループ
26日(木) 木製遊具の導入事業検討委員会
10月 7日(月) 第6回連絡調整会議
綾プロ環境教育勉強会
11~12日 杞道ふれあい調査
15日(火) てるはの森の会 定例会
17日(木) 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業検討委員会
19~20日 東京おもちゃ祭り木製遊具出展協力
20~22日 北九州エコライクステージ & アジア太平洋RCE地域会議パネル出展
24日(木) 第6回地域づくりワーキンググループ
29日(火) 第3回生物多様性日本アワード優秀賞授賞式
11月 2~4日 NACS-J自然観察指導員講習会参加
(4日エクスカーションにて川中ガイド)
6~8日 森林をめぐる伝統知と文化に関する国際会議参加
11日(月) 持続可能な地域づくりを担う人材育成事業検討委員会
12日(火) 綾町生涯学習講座
13日(水) げんだばの森草刈り作業
14~15日 第1回アジア国立公園国際会議(仙台) 綾プロ参加
19日(火) てるはの森の会 定例会
21日(木) 綾小学校環境教育授業
23~24日 綾工芸祭りブース出展
27日(水) ガイド依頼(参加者18名)
29日(金) 第7回連絡調整会議
30日(土) 第13回間伐ボランティア事業
林床植生調査
2日(月) 第7回地域づくりワーキンググループ
12月 10日(火) 綾町生涯学習講座
12~14日 エコプロダクツ2013ブース出展
16日(月) 第8回連絡調整会議
17日(火) てるはの森の会 定例会

今後の予定

- (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)
- 1月 11日(月) 上畠ふれあいウォークモニターツアー
14日(火) 綾町生涯学習講座
28日(火) 第9回連絡調整会議
第19回連携会議
綾プロ事業説明会
2月 21日(金) 第10回連絡調整会議
22日(土) 第14回間伐ボランティア事業

◆ アジアの研究者に、当会の活動をアピールしました!

11月7日 てるはの森の宿で開催された「森林をめぐる伝統知と文化に関する国際会議」で、照葉樹林ガイドボランティアの寺原さんに、当会の活動を英語で発表していただきました!



当会の会員さんの層の厚さを参加者に印象付けました!

綾のどんぐり作品展 開催中

会場:てるは森の驛 2階

会員の藤本綾子さんの作品を展示しています。

さて、綾で見つけることのできるドングリはどんなものが何種類あるでしょうか!? 森の驛に子どもが集まって明るくなつたと大好評です。ぜひ足をお運びください♪

協賛企業



会員募集中!

「てるはの森の会」では、綾の照葉樹林プロジェクトにご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林やプロジェクトに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年4回お届けします。プロジェクトが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問合せください。

年会費

個人会員	2,000円
家族会員	3,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円